9. 田植え定規･田植え縄

田植え機が出回る前は、田植え定規・田植え縄で稲をまっすぐに揃える正条植えが行われていた。摂津市域では男も女も田植をした。

◆正条植え

田植えをするとき稲株をまっすぐ並べて植えると除草機が入って草取りの能率はぐんと向上する。稲株をまっすぐに間隔を等しく植えることを正条植え（せいじょううえ）といった。富国強兵策の基礎として農業を重視した明治政府は、日清戦争後に短冊苗代や正条植えの普及をはかった。「正条植え」という漢語調の言葉は、お上のお達しの用語。

◆田植え縄・田植え定規

<A>は田植え縄の糸巻き。軸の鉄棒は 58 ㎝で、尖った先を畦にさしこんで田植え縄をピンと張り、正条植えの基準線とした。正条植えすれば、縦・横に除草機が入る。

<B>は田植え定規で長辺が 132 ㎝、短辺 92 ㎝。直角をとる時に用いた。<A><B>は簡単ながら便利な道具で、田植え機に頼らない手植えの時には今なお使われている。

◆スジカイダとウマグワダ

一津屋では<C>のように前後左右とも等間隔に植えて斜めの線も通るのがスジカイダ（筋交い田）とかグノメダといった。スジカイとは建物の柱間に斜めに通す補強材で、グノメとはハスカイ（斜め）のことだそうである。これに対して<D>のように前後は直線に並ぶが、左右の揃わないのをウマグワダ（馬鍬田）といった。

二毛作田は全てスジカイダで、スイデン（一毛作田）はウマグワダだったという。

◆江戸時代の田植え

<E>は『絵本通宝志』の近世の田植え。糸は使わず目見当で植えている。

◆ナエウチ・ナエカゴ

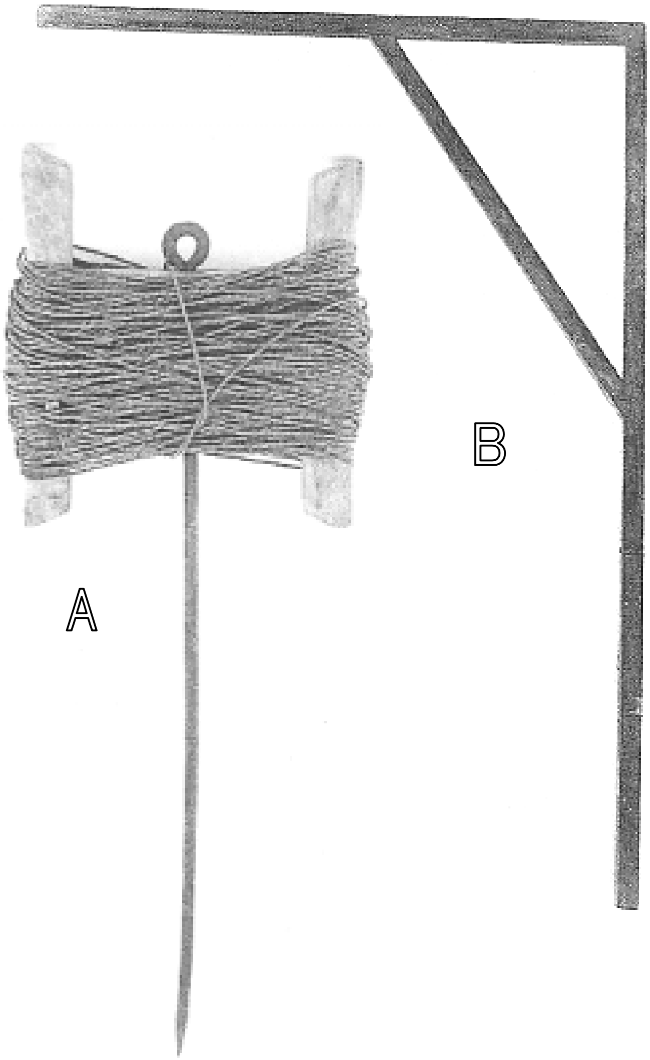
田植えする人の近くに苗束を投げ渡すことを、ナエウチ（苗打ち）という。ナエウチは１畝に 10 把うつ。「苗が上手に打てたら一人前」（千里丘東）。

ナエカゴ（苗籠）を腰にぶら下げて苗を植える。苗打ってあるのを水を切って入れておく（千里丘）。

◆男も田植え

田植えは男も女もした（鶴野・一津屋・鳥飼中）。田植えは一家総出。子供は苗運びを手伝った（千里丘）。田植えは古くは女の仕事、男がやるのは新開地という見解がある。

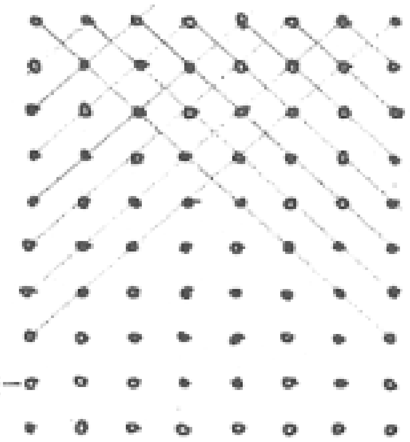
手伝いあう慣習をテツダイヤイといった（千里丘）。兄弟で融通した（鳥飼中）。



A

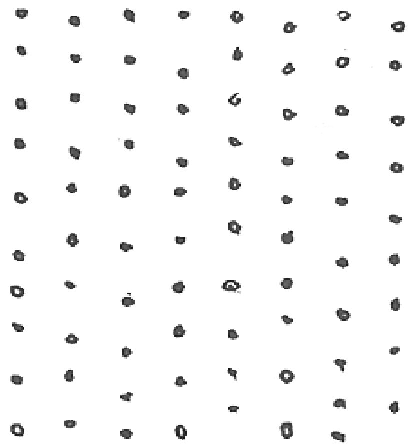
B

C



[スジカイダ，ゲノメダ]

D



ウマグワダ]

E